

第34回日本身体障がい者水泳選手権大会参加上の注意事項

1 競技規則と競技方法

- 1) 本大会について、S1~14, 21はWPS競技規則、S15は、FINA競技規則による他、本大会要綱に基づいて行う。
- 2) 競技方法は、リレーは予選を実施、個人種目はタイムレース決勝とし、複数のクラスが同時に行われた記録の処理はクラス毎とする。各種目（リレーの場合はチーム）の優勝者に金メダルが授与される。2位には銀メダル、3位には銅メダルが授与される。ただし、参加申込者が2名（チーム）までの種目は1位のみ、3名（チーム）の種目は2位までにメダルを授与する。表彰状は授与せず、記録証を全員に授与する。リレー優勝チームには優勝カップなどを授与する。（取りきり、2位、3位はなし、個人メダルのみ）
- 3) 大会では、当連盟競技者資格規程が適用されるので、スポーツマンシップに注意すること。
 - *水着、広告規制、ミサंगा、イヤリングなど招集所でチェックされるので、その旨心得ること。
 - *テーピング・サポーターも原則禁止されている。絆創膏などもテーピングとみなされ、審判長の指定した役員の許可が必要。（該当レースの30分前までに所定の申請用紙にて招集所へ申し出ること）
 - *障がい上、医療用具（ストーマ、カテーテル等）を装着して泳ぐ場合は、テーピングと同じく審判長の許可が必要。（該当レースの30分前までに所定の申請用紙にて招集所へ申し出ること）
- 4) 水着の取り扱いについては、WPS規則、FINA規則による。障がい上など着用に問題がある場合は申し出ることによって例外的に認めることがある。また、記録の公認については、内容によってその都度判断をする。（該当レースの1時間前までに所定の申請用紙にて本部総務へ申し出ること）

2 スタートについて

スタートは1回のみとし、やり直しは行わない。他の選手がフォールススタートした場合も出発合図員の号砲によってスタートすること。スタート合図は、英語（「Take your mark」）で行う。

※スタートの方法

審判長の短い笛の合図で準備し、長い笛の合図でスタート台に上がり、「Take your mark」の合図を待つ。背泳ぎ以外で水中スタートする場合は短い笛の合図で、直ちに自レーンもしくは近い方のプールサイドから入水し、自レーン内に移動する。飛び込みスタートの時は「Take your mark」の合図の前にスタート台の前縁に足の指をかけて、号砲を待っても構わない。ただし、同じ組で水中スタートと飛び込みスタートの選手がいる場合は、短い笛と長い笛の間が空くので、飛び込みスタートの選手はリラックスして待つこと。（競技の進行上、水中スタートする選手でプールサイドから入水する選手は個人個人の選手紹介が終わり次第プールサイドに移動し入水、準備をすること）

3 競技順

競技は、女子・男子の順に大会プログラムの順序で行う。シニア(50才以上の部)、一般についてはシニア種目を先に行う。

4 招集

招集は、指定された招集場所において、競技開始時間の30分前より開始し、10分前に終了する。招集時間に遅れた者は棄権とみなすので、各自プログラムで自分の招集開始時間を確認すること。また、競技の進行に注意すること。（競技進行が20分以上早くなった場合は、場内放送を入れる）

5 競技エリア内入場許可、介助申請

本大会では、競技エリアにコーチや介助者が入る場合、ルールエクセプションコード「T」、「A」の

記載のある選手については申請不要である。「T」、「A」の記載のない選手については「エリア入場許可申請」、「介助申請」を行い、許可を受けなければならない。レース 30 分前までに、理由を記載したエリア入場許可申請書を招集へ提出すること。内容によっては認められないことがある。また、入退水、タッピングなどの介助を大会本部に依頼する場合も、該当レース 30 分前までに招集へ介助申請が必要である。申請書は、受付で配布する。申請書は（一社）日本身体障がい者水泳連盟ホームページからもダウンロードできる。（<http://new.paraswim.jp/>）

なお、大会本部に介助を依頼する場合、介助の内容を介助者に詳細に伝えて打ち合わせを行い、怪我など問題が起こらないように努めること。

6 競技時間

競技時間は、進行により変更する場合があるので、各自進行状況に注意すること。（進行が 30 分以上早くなった場合は、審判長の判断で時間を調整する）

7 棄権・訂正について

氏名、所属の訂正や棄権の場合はそれぞれプログラム訂正用紙、棄権届に記入し、競技開始 1 時間前までに招集へ提出すること。参加種目の変更や追加は一切認めない。プログラム訂正用紙、棄権届は受付で配布する。

8 抗議について（クラス分けに関する抗議は別の定めに従うこと）

競技開始前に判明した事項は出発合図の前に文書で審判長に提出しなければならない。競技終了後の抗議は、レース終了後 30 分以内に文書によって大会本部総務へ抗議料 10,000 円を添えて提出しなければならない。抗議用紙は、大会本部総務に備え付けている。

* 審判長へ失格理由などを問い合わせることは抗議ではない。

9 表彰

表彰は、競技終了後直ちにプールサイド表彰場にて行う。入賞した選手は、表彰者控え場所に待機すること。

10 速報の掲示及び記録証の配布

速報は、2 階ロビーに掲示する。記録証配布は受付で行う。

11 リレーオーダー等について

各チームの責任者は、リレーオーダー用紙をその種目の開始 1 時間前までに招集に提出すること。（ポイント記載や選手の重複出場など間違いのないようにすること）

リレーにおける第一泳者の記録は測定しない。

12 ウォーミングアップについて

メインプール

11 月 17 日（金） 13：00～17：00

11 月 18 日（土） 10：00～11：20（公式スタート練習時間 10 時 50 分～）

11 月 19 日（日） 8：40～9：50（公式スタート練習時間 9 時 10 分～）

※公式スタート練習時間は、当日の状況により変更になる場合があるので、当日の案内に従うこと。

サブプール（※2 レーンのみ使用可）・ダイビングプール（※開閉会式中は不可）

11 月 18 日（土） 10：00～18：30

11 月 19 日（日） 8：40～15：30

1 3 監督者会議について

監督者会議は行わないので、この注意事項を良く読んでおくこと。
質疑がある場合は大会本部総務へ問い合わせること。

1 4 クラス分けについて

11月17日（金）に肢体不自由のクラス分け評価を行う。

肢体不自由者のクラス分けは、国内のルールで行われ、その時に決定したクラスがエントリークラスより優先される。競技観察の結果、J ステイタスレベルのクラスが決定する。クラスが変更になった場合、必要であれば種目の変更が認められる。

大会当日は全競技において、クラス観察を行う。クラス分け委員から指示があれば、その指示（クラス分け評価、次回クラス分け受検等）に従うこと。

視覚障がい者、知的障がい者のクラス分けは行わない。

1 5 アンチ・ドーピングについて

障がい上、必要な薬物使用であっても、許可を得ていなければドーピング違反行為と見なされる。ドーピング違反となった場合は規定に従って出場停止などの処分があるので注意すること。日本アンチ・ドーピング機構のWEBサイトをよく読んで参加すること。（<http://www.playtruejapan.org/>）

1 6 トレーナーブースの設置について

トレーナーブースは設置しない

1 7 その他

- 1) 選手受付は、2階ロビーで行う。
- 2) 今大会では車椅子の貸し出しは行わない。各自対応すること。
- 3) 更衣室のロッカーは施錠しているので、荷物などは自己管理すること
- 4) 選手の休憩・待機場所は、招集場側2階観覧席とする。ただし車椅子選手は1階プールサイドとする。
- 5) 弁当申込者（事前のみ）は、引換券を持参して午前11時以降に2階受付に取りに来ること。空き箱は回収するので午後2時までに配布場所まで返却のこと。
- 6) 観覧・応援はプール観覧席を利用すること。大会側より許可を受けた者以外の競技エリア内への入場はできない。
- 7) 更衣は、選手専用更衣室を利用すること。家族更衣室は当日案内する。貴重品等は各自で管理すること。紛失などの責任は一切負わない。また、大会1日目終了後は必ず荷物は会場に残さず持ち帰ること。
- 8) プールエリアは裸足となっているので、2階下足箱を利用し、1階へ降りること。
- 9) 大会参加者用駐車場はないので、公共の交通機関を利用し来場すること。
- 10) 大会期間中における事故または傷病については、応急処置のみとする。その他の責任は負わないので、体調などは各自自己管理すること。
- 11) 大会会場での写真・映像撮影は、指定の場所（2階観客席）でおこなうこと。指定の場所以外の写真・映像撮影は禁止する。
- 12) 大会要綱にも記載したように、本大会では、ユーストリーム等で競技状況の映像などを配信するので、選手としての自覚をもって行動をするなど、その旨心得ること。
- 13) 個人情報の取り扱いについて
本大会のプログラム記載事項、記録などは連盟ホームページで公開する予定である。その他、連盟の個人情報取り扱い方針に基づいて行われる。
- 14) ゴミはすべて持ち帰ること。